

千葉県立野田看護専門学校

学校関係者評価報告書

(令和5年度)

令和6年6月

学校関係者評価委員会

## I 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

千葉県立野田看護専門学校では、「令和5年度自己点検・自己評価結果概要」をもとに、学校関係者評価を実施したので以下のとおり報告します。

### 1. 実施年月日

令和6年3月21日（木）15:00～16:30

### 2. 学校関係者評価委員会委員 9名

1	近隣教育機関	1名
2	実習施設	2名
3	非常勤講師	1名
4	看護職能団体	1名
5	地域	2名
6	第一看護学科卒業生代表	1名
7	第二看護学科卒業生代表	1名

### 3. 評価内容

#### 1) 自己点検評価の結果

評価項目Ⅰ 教育理念・教育目的・教育目標

評価項目Ⅱ 教育課程

評価項目Ⅲ 教育活動

評価項目Ⅳ 経営管理

評価項目Ⅴ 入学

評価項目Ⅵ 卒業・就業・進学

評価項目Ⅶ 地域社会

評価項目Ⅷ 研究

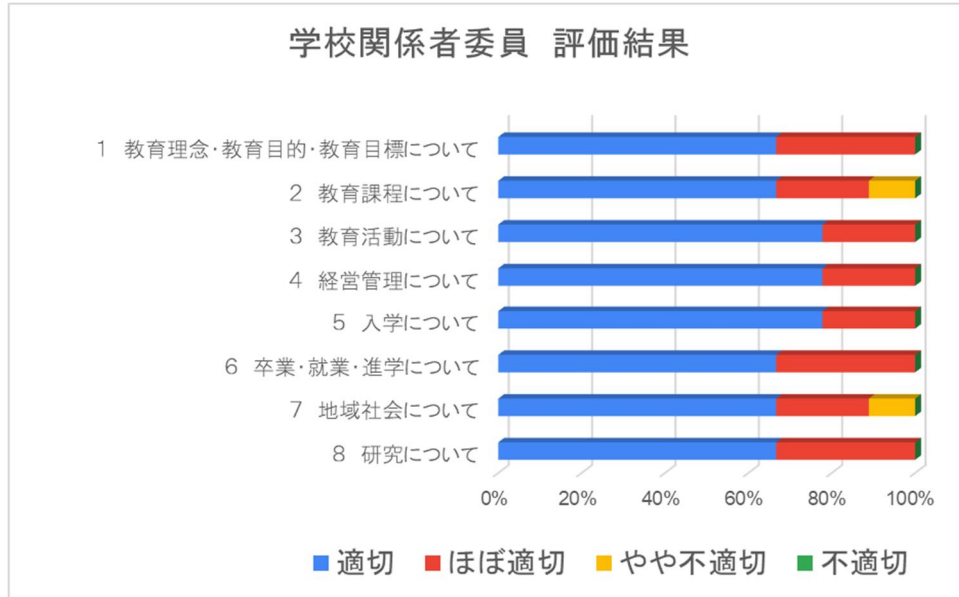
#### 2) 「授業評価」

#### 3) 「卒業生支援」についての評価

## II 学校関係者評価結果

### 1. 総合評価

自己点検・自己評価結果の客観性・透明性を高めるために学校関係者に評価の妥当性について4段階（適切、ほぼ適切、やや不適切、不適切）で評価をいただきました。大項目ごとの評価は、概ね適切あるいはほぼ適切との評価をいただきました。一部「教育課程」「地域社会」についてはやや不適切の評価をいただきました。



### 2. 評価項目ごとの評価の妥当性について（4段階評価）

#### （1）評価項目Ⅰ 教育理念・教育目的・教育目標：平均評価 3.7（学校関係者評価）

- 教育理念・教育目的等では意見にあるように繰り返し確認することは重要性や、区切りの良い所で到達状況を把握し、その結果をフィードバックする重要性が認識されているように思われます。
- 教育理念と教育目標を学生に浸透させることは難しいと思いますが、理念・目標を意識して行動できるようになると、組織人として成長しやすいので、期待しています。
- 学生への理念、目標を浸透させるのは、大変なことだと思いますが、繰り返し確認をしながら学生に十分に浸透することを期待します。
- 学生にはあまり浸透していない印象を受けました。

#### 【学校の取り組み】

シラバスや各講義など、その都度、学生に説明し、教育理念・目的等について理解の浸透を図ってまいります。

#### （2）評価項目Ⅱ 教育課程：平均評価 3.6（学校関係者評価）

- 教育課程では新カリキュラムとなった状態や研修先との調整などの点が指摘されているが、評価検討し次年度に改善していく姿勢があり、さらにブラッシュアップされていくものと期待できる。
- 先生方の自己評価が低いように思いましたが、より良い状態にしたいという思いから課題化できているためと理解しました。
- カリキュラムの変更に伴う体制整備だけでなく、時代の変化に応じた学生への対応も踏まえた体制整備が必要であると思います。
- 実習を受け入れている側として、実習の指導に学校が苦渋しているように感じられる。

- 前年度を下回る小項目もあり、新カリキュラムや教員の経験差によるものかと推察されます。
- ハラスメントは当事者の主観で左右されることもあり、難しい問題とは思いますが、学校全体で情報共有ができると良いと思います。
- 新カリキュラムが学生に良い影響を与えている。

#### 【学校の取り組み】

第一看護学科では、科目「野田の歴史を知る」での講義やフィールドワークをとおして、野田市の新たな発見につながり、看護学生としての視点で地域を知る点で効果的であったと評価しています。また、「芸術と表現」という新規科目では、音楽とアートに触れることで広く人を知るという機会となり、学生達からも楽しく、看護の視点を学べるという意見が聞かれています。

第二看護学科では、フィールドワークをとおして、学生たちが地域活動に参加し、自然に地域の方々と触れ合い、自ら積極的に地域の方々に働きかけるという体験ができています。地域を知ることだけではなく、コミュニケーションスキルの向上にも繋がると評価しています。また、授業が終わった現在も継続して活動に参加している学生や、桂祭（学校祭）の際には地域の方々とともにクラスの出し物を行い、継続した関係作りを通して自分たちも地域の一員であるという意識が持てたという点も評価しています。

#### (3) 評価項目Ⅲ 教育活動：平均評価 3.8（学校関係者評価）

- 他の講義との連携がとれていないため講義が重複するとの意見があったが、同じ内容でもアプローチが異なれば重複しても良いと思います。
- 現場の人員不足は県や国に対して粘り強く訴えていってほしい。
- 新型コロナが5類に移行しても、外部講師、実習対応と学生への個別指導や対応などに加え、感染対策など教員の業務負担は変わらないと感じます。業務改善や体制整備などが必要だと思います。
- 外部講師との都合調整や教員の能力差、人員不足、実習病院の指導方針等の要因により左右されるとは思いますが、可能な範囲で教育に尽力されていると思います。

#### (4) 評価項目Ⅳ 経営管理：平均評価 3.8（学校関係者評価）

- 会議録などは経費削減などから電子媒体で閲覧できるなどの工夫も示されており検討する価値があるように思いました。
- 「保健室の整備」は療養環境への感覚を鈍くさせないために必要だと思います。
- DXの推進と風通しのよい雰囲気醸成と維持を働き方改革に努力していることに好感を持った。
- 校舎の老朽化による不具合の改善など、予算の関係もあると思いますが、安心・安全の教育環境の整備も必須ですので、十分な修繕計画が必要だと感じました。また、教員の人員不足に対する採用と定着の対策も重要だと思います。
- 教員育成と人員不足、校舎や設備の老朽化など、日々の努力では解決し難い問題が多いように感じられます。
- 第一看護学科と第二看護学科との連携が難しいように感じている。

#### 【学校の取り組み】

##### 1) 定員確保について

年1回、翌年度の定数について千葉県健康福祉部に両学科1名ずつの増員要望を出しているところです。また、実習指導補助として臨時雇用もしています。

##### 2) 業務過多について

昨年度、時間外業務の現状を調査しています。今後、業務改善に向けてデータ分析を行う予定としています。業務内でDX化（Google classroomを活用した情報伝達など）を図っていますが、それ以外で、教育全体を見直す時期であると認識しています。

##### 3) 学科間の連携について

両学科のカリキュラムの違いから、同時期に学内に常勤することは難しい状況です。そのため、大学のような両学科の同講座で授業等を行うことは難しいと考えております。また、臨地実習指導によ

り教員が学内に戻ることができない状況もあり、両学科の学生を共通して指導する等の具体的な対策を講じることも難しい現状があります。しかし、各個人の認識では両科の垣根を越えて関わる意識を持っており、各委員会等ではともに活動を行い学科間での連携を図っているところです。

(5) 評価項目V 入学：平均評価 3.8 (学校関係者評価)

- オープンキャンパスの開催は教員の負担になるように思われます。学士入学者枠を増やすことや、再教育者の入試方法など入学しやすい仕組みや、広報活動の検討が必要である。
- 看護大学の増加、大学志向、少子化の影響で看護専門学校の学生確保は、社会的な変化に鑑みて方向性の検討も必要だと感じました。
- SNS等での情報発信や入学時期を9月にするなど様々な方向性も検討して行くべきだと思う。
- 第二看護学科は、今後、准看護師数が減っていけば、学校の努力だけでは難しい。

(6) 評価項目VI 卒業・就業・進学：平均評価 3.7 (学校関係者評価)

- 就業に関しては、特に2年生と3年生の中途退学希望者の面倒は丁寧に指導してほしい。
- 県内就職率の上昇は、素晴らしい成果だと思いました。
- 学生への個別支援など、学生の特性も多様化する中で苦慮されていると感じました。
- 中途退学や就職先については、学生の考えもあり学校の努力だけでは難しい。
- 卒後支援にもホームカミングディなどで機会を作っている事は素晴らしい。
- 個別化が強調される現状は、教員の対応もなかなか困難とは思いますが、その中でも学生の情報を共有し、丁寧に対応されていると感じます。

(7) 評価項目VII 地域社会：平均評価 3.6 (学校関係者評価)

- 防災面での連携は必要であると思います。
- 新しいカリキュラムの中で意識していることがわかった。
- 新型コロナが5類になり、地域活動への取り組みが増え、教員の負担も増しているようではありますが、地域との交流、連携の継続を期待します。
- まだ感染症の問題も続いており、コロナ渦以前のような関わりは難しいとは思いますが、可能な範囲で地域との関係を密にしていってもらえたら良いと思います。

(8) 評価項目VIII 研究：平均評価 3.7 (学校関係者評価)

- 先生方が研究に取り組む姿勢を学生にみせることは、向上心を持つ優秀な看護師育成に重要だと思います。先生方が、研究に取り組む余裕ができる人員確保や環境が整備されることを期待します。
- 研究を行う環境づくりは必要かと思う。
- 日々の業務に忙殺されている印象を毎年のように感じます。教員の皆さんが平等に自己研鑽に励むことができる環境作りを望みます。

3. 授業評価について

- 学生による授業評価は公的機関からの通達で行われているものと思っています。義務教育機関でないので、学生が教員を評価することには納得できない。公的機関の逃げ道の一つとして行われているものと考えます。時間の無駄であるように思う。医療系の学校は国家試験があり、そこをクリアさせる使命があるので、授業には最善を尽くしています。
- 評価は適切に行われていると思います。
- 画一的な人材ではなく様々な人材というか個性を活かした人材を特に二看では輩出してほしい。

- 全体的に高評価で、先生方の御指導の賜物と思いました。また、臨地実習の回収率が 30%高いことで、実習で成長し責任感が高まっている表れなのではと評価しました。特に、「グループメンバー間での協力」「教員及び指導者のかかわり」「充実した実習だった」の評価が高いので、良好な人間関係が学びを深め、実習成果に繋がっているのだと思いました。
- 専任教員と非常勤講師の評価項目が違うが、類似項目は同じ表現の方が答えやすいと思う。
- ネットワークシステムでの評価となっていますが、アンケート回収率が下がっているため、回収率改善への取り組みも必要だと感じます。
- アンケート回収の時期について終講時ということだが、収集のしにくさに繋がっている。
- 非常勤講師、専任教員とも第一・第二看護学科での差はなく、また、臨地実習評価も両学科とも高評価であり、学生にとって満足いく教育が提供されている結果だと思えます。
- 回収率が下がっているが、評価結果は下がっていないという分析は、真面目な学生が回答しているからではないか。回答しない学生の評価を含めた場合は、全体評価が下がる可能性は否めない。また、回収率の高い科目と低い科目の特徴を比較検討すると、回収率を上げる対策のヒントが得られるのではないか。

#### 【学校の取り組み】

評価には「1」「2」をつける学生もいました。結果として、中間の評価が抜けているのではないかという印象です。学生からは、シラバスとの相違、学習進度が早い等の意見が挙げられています。回収率については、複数科目のテストが重なっていない場合、高い傾向にあります。学生評価の時期は終講時に実施しているため、テストが連日行われる状況では回収率が下がる傾向にあります。科目というよりテスト時期が回収率の影響要因と考えております。今後さらに分析を進めていきたいと考えます。また、WEBでの回答方式にしている点も Wi-Fi の問題も含めて回収率に影響しているものと思われます。Wi-Fi の問題については、試験後に PC 室で評価する機会を設ける等、対応を具体化していく必要があると考えます。さらに、学生への授業評価に関する意識づけ等を継続的に行っていきます。

#### 4. 卒業生支援について

- ホームカミングディは、卒業生の交流の場となっている。一年目は施設での対応は手厚いが、二年目以降になると減る。
- 離職の理由は様々と思えますが、平均値よりも低値であることは、臨床に沿った教育が行われていると思えます。根拠が述べられるように育ってもらえたら、人間関係で悩むことの一因が減るのではないかと思います。我々も質問しやすい環境を作れるように努めていきます。
- 離職防止に向けて学校側での教育の在り方を考えるというより、これは臨床側の問題と考える。在校生の対応だけでも大変な状況を考えると、卒後 2 年目までの対応を学校側が担うのは難しいと思う。
- 現場での教育体制はあっても、個人の特性から離職につながるケースもある。社会人経験のある人については個人の経験を踏まえて、本人のプライドを大切にしながら支援しているが難しさを感じている。
- 現場では 1 年目の支援は手厚い傾向にあるが、翌 4 月になると新人が入り 2 年目の支援までは難しい現状がある。そのため学校との 2 年目のつながりもあると良いように思う。

#### 【学校の取り組み】

卒業生に対しては、来校しなくてもメールでの相談を受けているところです。また、今後も臨地実習の際などに声をかけていこうと考えております。引き続き、臨床とのやり取りをしながら支援していく所存です。

おわりに

事前にたくさんの資料をお送りし、ご検討いただいた上、会議当日には、多くの貴重な意見をいただき感謝いたします。

自由記載欄の意見については、職員会議、学科会議で共有し、課題について優先順位をつけ取り組んでまいります。また、今後も学生確保、教員確保に難渋することは避けられないことと認識しております。その中でも、教員負担も考慮しつつ、学生個々に合わせた学習支援を行い、看護師国家試験の全員合格を目指してまいります。

安心して学習できる環境づくり、働きやすい職場環境づくりにも引き続き取り組みます。

今後ともご指導いただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。